

# 春告草

第123号 平成30年11月7日 進路指導部発行

## 最後まで伸びる受験生はここが違う！

センター試験まで73日である。志望校合格に向けた本当の戦いはこれからだ。教科書の内容が一通り終わって、いよいよ現役生が力を伸ばしていく時である。「現役生は最後まで伸びる」とは、よく言われていることだ。長年受験生の様子を見ているがそれは、正しい。「11月頃から、模試で問題が解けるようになってきた。」という卒業生の話も聞いたことがあるが、とにかく「これから」なのである。しかし、一方で思うように実力を伸ばせず、苦悶する受験生もいた。実力を伸ばし、合格をつかむ受験生は何が違うのか。6年生の皆さんへエールを送る気持ちで、これからの学習行動や気持ちの持ち方などについて書いてみたいと思います。

### 志望校合格を強く願い、「受かる勉強」をする。

これからの時期に重要なのは、志望校に受かりたいという強い気持ちと「受かる勉強をする」ということ。勉強法が誤っていれば、どんなに頑張っても、時間や労力に見合った成果を得られず、「受かる勉強」をした受験生には勝てない。情報を集め、試行錯誤しながら自分に最適な方法を見出して欲しい。

#### ここが違う！その1 やるべき勉強を自分で考える

これからの時期は、自分の志望校や自分自身の状況に合わせた戦略的な学習が必要になる。授業や放課後講習では担当の先生がポイントを押さえた講義を行っているが、これを自分の学力状況に合わせてアレンジすることが必要だ。自分の弱点部分であれば、授業や講習以外に不足分を補う学習活動が必要になるし、逆の場合には、より発展的な内容にチャレンジしていく積極的な姿勢が求められる。受け身の学習から脱却し、志望校や現状に合わせた自分独自の学習プランを立て、戦略的な学習をしなければいけない。

#### ここが違う！その2 苦手なタイプを分析し、伸びる部分を優先する

「苦手科目は伸びしろがある分、得点の伸びも大きい」は決して間違っていないが、時と状況によって使い分けるべきだろう。まず、センターまで10週となった6年生には、時間が限られている。苦手についても、勉強が遅れているから苦手なのか、勉強してきたのに苦手なのかの見極めが必要だ。前者は勉強すれば伸びる余地はあるかも知れないが、後者は今後急にできるようになるとは考えにくく、力を入れてもそれに見合った成果は期待できないだろう。勿論、苦手科目を放置しておけばよいということではなく、深追いは危険だということ。合否は総合点で決まるのだ。

#### ここが違う！その3 模試の失点を分析して、受験対策に役立てる

模試を弱点の発見に活用するのは当然だが、単に「間違えた問題＝弱点」で終わらせるのではなく、失点・減点をさらに細かく分析できる受験生は伸びる。失点や減点は、大きく3つに分類できる。一つ目は勉強不足でできなかった問題。これは、今すぐやるしかない。少し古いが「いつやるか？今でしょ！」なのだ。二つ目は、勉強したのにミスをしてしまった問題。これはミスの原因を分析し、同じミスを繰り返さないように対策をしよう。三つ目は、勉強したのにわからなかった問題。これは考えどころだ。原因を明確にできれば対策を考えるが、解説を読んでも理解できないのなら、あきらめるのも手だ。入試で満点をとる必要はないのだから。先にも述べたが、深追いは危険である。

平成30年度入試合格ライン  
慶應義塾大学

学部学科	最低点	満点
文(一般入試)	228	350
経済(A方式)	207	420
経済(B方式)	243	420
法(一般入試)		
法律	246	400
政治	249	400
商(A方式)	265	400
商(B方式)	293	400
医(一般入試)		
<1次試験>	305	500
理工(一般入試)	260	500
看護医療(一般入試)		
<1次試験>	293	600
薬(一般入試)		
薬	204	350
薬科学	204	350

問題の難易レベルにもよるが、大雑把な言い方をすれば大体6割前後が合格ラインとなる。今年度の慶應は商学部B方式が73%で最高。逆に経済A方式は約49%だった。

#### ここが違う! その4 本番のリハーサルとシミュレーションを十分にやっている

「本番に強い」といわれる人に共通しているのが、事前に本番のリハーサルとシミュレーションを徹底的に行っていること。リハーサルの主な場は模試である。例えば、設問を先に読んでいた方が良いのか、どのくらいの速度で読めば時間内に解ききれぬか、大問ごとの解答順序はどれくらいがベストか、最も効率よく解ける解答手順・方法をいろいろと試してみよう。記述問題であれば、どのくらいのボリュームで書けば、規定の字数の範囲に収まるのかの感覚も本番では生きてくる。これからの時期は、普段から「時間内に得点をとる」という意識をもって問題を解くことが重要だ。そして、リハーサルで得た経験を活かし、過去問を使って試験本番のシミュレーションに着手して、最善の解答作業の流れを完成させよう。早慶模試など大学別の模試も貴重な「実戦練習」の場となる。センタープレテストは期末試験直前の実施になるが、本番を想定して受験することが、試験当日のゆとりにつながるはずだ。

#### ここが違う! その5 頑張りを支える生活習慣が確立している

実力アップの大前提となるのが、受験生として適切な生活習慣が確立できていること。基本となる早寝・早起きはもちろんのこと、食事も重要である。脳は1日の消費カロリーの約20%を消費すると言われていて、相当な食いしん坊だ。脳の働きを良くするためにも、過度な食事制限やダイエットは絶対に止めよう。特に朝は下がった血糖値を上げる必要があるため、朝食は欠かさず食べる。また、精神的な安定を促す脳内物質「セロトニン」の生成に必要な蛋白質を摂ることも重要である。そして、睡眠については、今のうちに自分にとってベストな睡眠時間・リズムを見つけておこう。毎日同じリズムで生活して身体に覚えさせることで、勉強に最適なコンディションを無理なく作ることができる。早寝・早起き・朝ごはん、脳に良い生活を確立して、学力が伸びる土台を作るべし!

※セロトニンを増やすには[https://www.human-sb.com/serotonin/increase\\_serotonin.html](https://www.human-sb.com/serotonin/increase_serotonin.html)

#### ここが違う! その6 不安な気持ちを勉強の原動力に転化できる

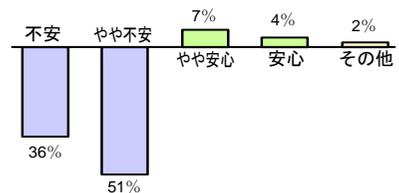
この時期、受験生なら不安を感じて当然だ。「落ちたらどうしよう」という不安と「受かりたい」という欲望は表裏一体のものだ。「受かりたい=勉強しよう」とポジティブな方向に持っていける人が、いわゆる「メンタルが強い」人なのだ。反対に、「この大学に落ちたら終わりだ」などと視野が狭くなったり、睡眠時間や前述のセロトニンが不足したりすると、不安を感じやすくなる。いつもより不安を感じる時には、よく寝て、食事でたんぱく質を摂り、「人生には様々な道があり、第1志望校に行くことだけが道じゃない。受験勉強は決してムダにはならない」と、頑なになった気持ちを緩めよう。右図のような調査データもある。不安なのは自分だけではないことを知ろう。

#### ここが違う! その7

#### 最後までクラスの一員としての自覚を持っている

6年間一緒に生活してきた三鷹の友達は、一緒に受験の荒波を突き進む仲間である。勿論、時として競争相手にはなるが、蹴落とす相手ではなく、一緒にゴールテープを切る仲間でありたい。自分一人では、もうとっくにエネルギー切れしていたこともあつただろう。一緒に頑張ってきた仲間がいたからこそ、ここまでやってこられたのだ。行事は終わってしまったが、行事を一緒にやり遂げたことがこれからのエネルギー源になっていくはず。教室を一緒に掃除するくらいの気持ちの余裕は持っていたいものだ。ゲームをやって勉強のストレスを発散しているようではいけない。解けない問題があつたなら、黒板を使ってみんなで問題を解いてみよう。後ろの黒板は単に連絡のためだけのものではない。

#### この時期の気持ちは?



#### どんなときにそうなった?(複数選択)

思うように成績が伸びないとき	69%
合格できる自信がもてないとき	60%
他人より劣っていると感じたとき	55%
ストレスがたまったとき	36%
勉強が予定通りに進まないとき	35%
学習内容や方法に自信がないとき	26%
忙しくて時間に追われているとき	18%
体力的に疲れて消耗したとき	13%

資料: 蛍雪時代



# 2019年度大学入試はどうなる？

いよいよ受験勉強が大詰めにあしかかるこの時期、気になるのは志望校や併願校の難易度や志望動向だろう。前年の入試結果や学部・学科改組、受験科目数の増減など、さまざまな要素によって変動する大学入試だ。受験プランを考える前に、チェックポイントを押さえておこう。

## センター志願者数は微増、59万人程度か

既に第121号でお知らせしたとおり、センター試験志願者数（暫定）が大学入試センターから発表された。昨年同時期に比べて僅かであるが増加している。確定志願者数は12月に発表されるがおよそ59万人程度が見込まれる。現役志願率は6割を超えて微増を続けているが、背景には「私大定員枠の厳格化」も影響しているようだ。すなわち、合格者の絞り込みによる中堅～難関私大の難化が、併願校数増加につながるが、受験料、入試日程や試験対策の面から、センター利用入試への依存度が高まっていると考えられる。加えて2年後の入試改革がある。現行のセンター試験はあと2回で廃止され、2021年度入試（現4学年受験年度）からは新テストが開始される。安全志向はますます高まるだろう。

## 国公立大学

センター試験そのものに関しては、2年後の廃止を考えれば大きな変化はないと見るのが一般的だろう。ただし、国語は2年連続で平均点がダウンしているの、その反動でやや易化しそうである。一方、平均点ダウンの英語リスニングは「入試改革」を先取りした新傾向の出題が続くと見られ、反動による易化はなさそうである。

推薦・AO拡大に伴う一般募集枠、特に後期試験の募集枠縮小は今年度以前の入試からの継続傾向である。本校生徒に影響しそうな大学は、東北大-文・法・理、東京外語大-言語文化・国際社会、大阪大-経済・工などである。大都市圏の私立大難化に、併願校数増加で対処する一環として、地方国公立大も積極的に狙う志望傾向が伺える。変動要素の大きい大学について、個別にみていこう。

■**東京外国語大** 「国際日本学部(前期35名)」新設に伴い、既設2学部は定員減と推薦枠拡大により、志願者大幅減の見込み。志望動向には十分注意してもらいたい。

■**東京海洋大** 海洋生命科学(前・後)と海洋資源環境(前・後)の出願条件(英語外部検定資格)の経過措置が廃止となり、全面的に必須となる。志願者減は必至なので、志望者は強気で勝負。海洋工(前・後)は昨年の反動から志願者増の見込み。

■**東京工業大** 類別募集が廃止となり、学院別募集が始まる。生命理工学院以外は前期のみの実施で、第3志望まで順位を付けて出願する。受験時より志望「学院」を目指せるので、受験生の人気は集めそうだ。学費値上げ(535,800円→635,400円)の発表もあったが、よりよい研究環境を提供しようとする大学側の姿勢は歓迎されるのではないだろうか。

■**東京農工大** 工学部が8→6学科に再編される。募集人員を「前期→後期」に移行する(前期326人→284人、後期160人→183人)。農学の人気低下があるが、昨年の反動もあり、農学部は志願者増加の見込み。工学部は募集人員減となった前期の出願には注意を払いたい。

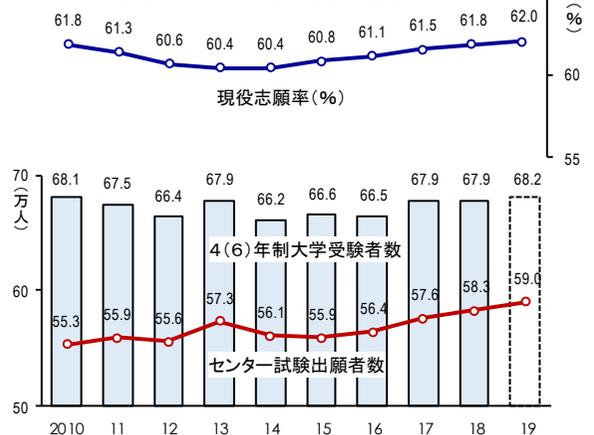
■**横浜市立大** 国際総合科学を、国際教養、国際商、理の3学部に分割・改組した。目指す学部・学科が分かりやすくなった分、人気は出そうだ。データサイエンスは2年目の入試。1年目は高倍率となったが、後期募集は2段階選抜(予告倍率=20倍)を新規実施する。

平成31年度大学入試センター試験出願状況

	平成31年度	平成30年度
出願総数	537,008	528,323
高等学校等卒業見込み者	444,953	438,250
高等学校等卒業生	92,055	90,073
確定出願数		582,671

(平成30年10月12日現在、平成30年度は昨年同時期の数値)

センター試験出願者数、現役志願率推移



(注)2019年の数値は、旺文社推定。現役志願率は、高校卒業者に占める大学・短大の現役受験者数の割合

## 私立大学

今年度入試では、何といても「定員管理の厳格化」の影響が大きかった。学習院大(志願者11%増に対し合格者12%減)や上智大(志願者7%増に対し合格者16%減)、法政大(志願者7%増に対し合格者17%減)をはじめ、昨年比較で志願者は増えたが、合格者を減らした大学が多い。また、入学定員を増やしたにもかかわらず、合格者数は逆に減らした大学もあり、「模試でA判定でも、不合格が続出した」入試だった。(下表参照)

次年度入試でもこの「厳格化」は変わらず、大規模校(収容定員8千人以上)で1.10倍、中規模校(同4千人~8千人)で1.20倍を超えて入学者を出すと私学助成金がカットされる。この為「合格者絞り込み」の動きは変わらないだろう。さらに、東京23区内に立地する大学については、定員増や学部等増設の申請が、原則として今後10年間は不可とされた。私立大志願者にとって、しばらくは厳しい入試が続くことになるだろう。

いくつかの大学について個別にみていこう。

■**青山学院大** 「コミュニティ人間科学部」を相模原キャンパスに新設する。

文(英米文)の個別学部日程C方式で、出願資格の英語外部検定(TEAP)のスコアを、新たに得点換算化する。

一方、経済の個別学部日程B方式で、英語外部検定利用と国語を廃止、「大学独自の英語と数学の2科目」に変更し、募集人員を増加する(15人→45人)。

■**中央大** 国際経営・国際情報の2学部を新設する。国際経営は多摩キャンパスにおかれ、設置科目の7割以上を英語で行う。国際情報は市ヶ谷田町キャンパスにおかれる。一般試験の入試科目は両学部とも英語、国語の2科目である。総合政策学部(1993年開設)以来の新学部誕生である。市ヶ谷田町はキャンパスと言ってもビルが建っているだけで、お濠を挟んで反対側は法政大学である。立地も十分検討して、出願計画を立てよう。

■**日本女子大** 人間社会で「英語外部試験利用型一般入試」を新規実施する。一般入試と同日実施で同時併願可(出願資格。英語以外の2科目で判定)。また、家政(児童)のセンター利用入試を4→3教科に軽減する。

■**明治大** 経営・国際日本・農・総合数理の全学統一入試で、英語外部検定利用(4技能)が可能になる(得点換算。総合数理は4科目方式)。

■**立教大** 全学部(文・ドイツ文学を除く)のセンター利用入試で6科目型を新規実施し、4科目型を廃止。ただし、理は従来の4教科(6科目)を名称変更。

■**早稲田大** 教育で指定校推薦の導入に伴い、一般入試の募集人員を削減(700人→560人)する。

首都圏私立大一般入試の合格者増減と倍率変動(2018年度入試)

大学名	志願者数 (2018年)	志願者 指数	合格者数		合格者 指数	実質倍率 (17年⇒18年)
			2017年	2018年		
青山学院大	62,905	103	8,064	7,313	91	7.0→7.9
学習院大	20,447	111	3,995	3,526	88	4.4→4.6
慶應義塾大	43,301	97	8,978	8,817	98	4.6→4.5
國學院大	24,757	99	4,293	4,403	103	5.7→5.5
駒澤大	44,815	108	9,569	8,550	89	4.3→5.1
上智大	31,181	107	6,056	5,085	84	4.7→5.9
成蹊大	21,162	90	4,720	4,203	89	4.7→4.7
専修大	45,761	103	9,892	8,437	85	4.3→5.2
中央大	88,182	119	15,857	15,198	96	4.4→5.5
東京理科大	56,566	106	16,559	15,833	96	3.1→3.4
東洋大	115,441	114	24,674	21,504	87	4.1→5.4
日本大☆	115,180	102	29,333	29,370	100	3.7→3.7
法政大	122,499	103	21,181	17,548	83	5.4→6.7
明治大☆	120,279	106	22,854	21,216	93	4.7→5.4
立教大	71,793	115	11,260	10,452	93	5.6→6.9
早稲田大	117,209	102	15,927	14,532	91	6.7→7.5

(注) 志願者指数・合格者指数とも、2017年を100とした数値。☆は定員増を行った大学

センター試験まで13日  
頑張れ四期生!

The more we do, the more we can do.

もっとやれば、もっとできる。  
William Hazlitt (英国人、著作家)

合格祈願



センター試験受験会場  
本校は1期生より、受験タイプ別に一橋大、東京学芸大、津田塾大、明治薬科大学の4大学が割り当てられている。12月上旬に受験票が学校に届くが、そこで今年の会場が判明する。  
(写真は一橋大学東キャンパス)